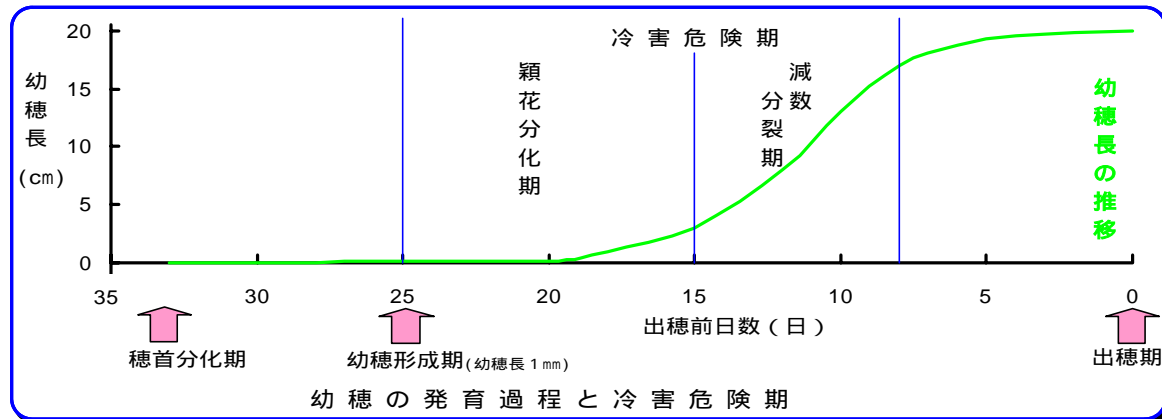


基本技術の励行で気象変動に負けない稲作りを！

冷害対策

冷害危険期は出穂前25～8日



平年的な気象条件における品種ごとの生育ステージ（県中央地域）

品種（移植日）	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
ふさおとめ（4/20）	6/18頃	6/29～7/6頃	7/14頃
ひとめぼれ（5/1）	6/27頃	7/8～7/15頃	7/23頃
コシヒカリ（4/20）	6/28頃	7/9～7/16頃	7/24頃
（5/1）	7/2頃	7/13～7/20頃	7/28頃

気象条件や地域により、水稻の生育ステージは大きく異なります。各地域で発行される水稻生育情報や、県発行の「水稻の生育状況と当面の対策」から、常に水稻の生育ステージの平年遅速を把握しておきましょう。「水稻の生育状況と当面の対策」は、「千葉県ホームページ ちばの農林水産業 水稻の生育情報」で閲覧できます。

極端な早植えは禁物です！

早く植えると生育ステージも早くなるため、冷害危険期が梅雨寒の時期に当たってしまいます。右の表の播種と移植時期の早限を参考に、冷害回避を念頭に置いた作業計画を立てましょう。

品種	冷害回避のための播種、移植時期及び出穂期の早限（稚苗移植）					
	地域区分					
	安房・東京湾沿岸			その他の全域		
	播種	移植	出穂期	播種	移植	出穂期
ふさおとめ			7/15	3/25	4/20	7/20
ひとめぼれ	3/20	4/15		3/25	4/20	
コシヒカリ				4/10	5/1	
初星	4/5	4/25				
ヒメノモチ						

冷害危険期に低温に見舞われたら！

穎花分化期(出穂前25～15日)

症状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 籾の退化 ・ 白ふの発生
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10cm程度の湛水により株元を保温して幼穂を保護する。 ・ 穂肥は適期に施用し籾数を確保する。なおその際チッソだけでなく、カリやリン酸も加える。 ・ 葉色が濃いもち病の発生が懸念される時は、穂肥を減らす。

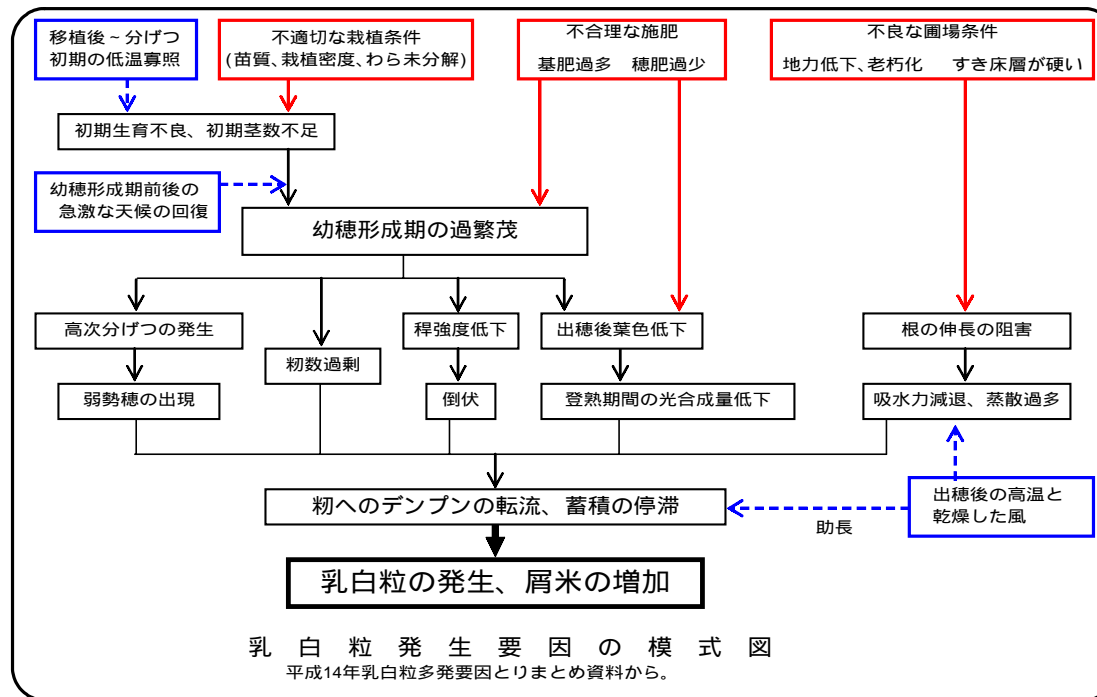
減数分裂期(出穂前15～8日)

症状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害が最も大きい時期 ・ 花粉の形成阻害による不稔籾の発生
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼穂が隠れる程度の深水かんがいをを行う。水は動かさないようにして水温を保つ。 ・ 低温時にはいもち病が発生しやすくなるので葉いもちの発生が認められたら、穂いもちへの感染を防ぐため薬剤防除する。

乳白粒発生対策

乳白粒の発生原因は、登熟期間の高温だけではありません

 は気象要因
 は栽培管理
 は水稻の反応



基本的な栽培管理の改善により、乳白粒の発生防止は可能です！

根を深く張らせ、水分や養分を十分吸えるようにしましょう。
秋耕でワラや雑草の分解を促進させ、植付け後の還元害を防止。地力を増進し、根が深く入るようにする。

適正な生育量を確保しましょう。（籾数は32,000粒/m²以内に、下表参照）
植付け本数は3～5本を目安に。基肥は、茎数が多くなりすぎないように適切な量を施用。植付け後目標茎数がとれたら、中干しや間断灌漑で過剰な分けつの発生防止。穂肥施用時期は早すぎず遅すぎず（施用適期は出穂前18日幼穂長1cmの時）

水管理は適正に
中干しや間断灌漑で土壌を酸化的にし、根の活性を高く維持する。出穂後25日までは間断灌漑を行い、養分の転流を促進する。高温時や乾燥風が吹くときには水を入れる（極端な高温時は昼間水を入れる）

品質向上のための目標穂数と籾数の目安

品種名	穂数		一穂籾数 (粒)	籾数 (粒/m ²)
	(本/m ²)	(本/株)		
ふさおとめ	480	27	65	32,000
ひとめぼれ	450	25	70	32,000
コシヒカリ	400	22	80	32,000

坪当たり60株植えの場合。コシヒカリの値は暫定値。